

大草谷津田いきものの里 自然観察会

カエルぴょこぴょこ何種類？

川北紀子（千葉市）

日 時：2018 年 6 月 3 日(日)10 時 30 分～12 時 天候：晴れ
参加者：60 名（大人 32 名 子ども 28 名）
担当指導員：山下美佐子・川北紀子

梅雨入りも間近となりお天気が心配でしたが、当日は快晴となりとても気持ちの良い観察会日和となりました。参加者も 60 名と多くの方々が参加してくださいました。

まだ寒かった 2 月ごろに水の入った田んぼにニホンアカガエルの卵塊がたくさん見られたことや 3 月中旬にはアズマヒキガエルが卵を産み始めたこと、その後にニホンアマガエルやシュレーゲルアオガエルが田植えの終わった田んぼに卵を産み始めたことなどを参加者に説明しました。それぞれの生体と卵の写真やオタマジャクシの顔のアップ写真などを見てもらい、カエルの親と子の顔は全く違うことなどを確認してもらいました。オタマジャクシがどのように子ガエルに変化していくか、オタマジャクシが何を食べて子ガエルになっていくかなどを話しました。カエルがたくさん卵を産んでもヘビや鳥に食べられたり自然現象で死んだりして、大人のカエルになるのはほんの 1～2%だと話し、田んぼで生きるカエルを大切にしようと説明しました。

田んぼでは参加者にオタマジャクシや子ガエルを金魚網などですくってもらいました。泥んこになる子もいましたが、親も子も夢中になって田んぼに入り、田んぼの生き物と触れ合ってもらいました。バケツの中に捕まえたオタマジャクシ・子ガエル(ニホンアカガエル・ニホンアマガエル)・トンボのヤゴなどを皆でじっくりと観察しました。アカガエルとアマガエルでは吸盤が違うことなどにも注目して観察できました。元気な子供達は他にも大草にいるトカゲ・カナヘビ・ヤブキリなども捕まえていました。



捕まえた生き物たちは、もちろん優しく田んぼにもどしてあげて観察会も終了です。残念ながら姿は見られなかったシュレーゲルアオガエルのケロロ・コロロという美しい鳴き声を BGM で聴きながら、最後にオタマジャクシの一生を楽しく描いた紙芝居「おたま たまごろう」をきいてもらいました。田んぼに吹く風がとても気持ちよく、参加者たちも大草の自然を満喫されたのではないのでしょうか。